Mifa

MIFA NEWS

No. 38
3/31. 2004

Moriya International Friendship Association

守谷市国際交流協会広報委員会発行

事務局 住所：守谷市大柏950－1
電話：0297－45－1111
URL: http://www.fureai.or.jp/~mifa

9.28　MIFAフェスタでJICA研修員と交流

2003年度（平成15年度）9月 ～3月の主な活動

9.13～14　JICA研修員ホームステイ
9.17～11.19　第27回ボランティア日本語講座
9.28　MIFAフェスタ2003「われら地球人」
10. 5　第2回MIFAサロン「ネパール文化に触れるサロン」
10.13　ドイツ語サークル開講
10.16　英会話講座後期中級クラス開講
10.17　英会話講座後期初級クラス開講
10.18　大好きいばらき県民まつり（国際交流ひろば）参加
10.19　MIFAコンサート「音楽で世界を巡る」
11. 6　地域別国際交流ネットワーク会議参加
11. 8　土浦市国際交流協会来市
11.16　第3回MIFAサロン「ドイツのクリスマス」
11.19　筑波大学学長主催外国人留学生懇談会参加
11.22　中国語初級コース（後期）開講
12. 5　つくば市国際課・国際交流委員会来市
12. 6・7　筑波大留学生ホームステイ
12.13　MIFAイヤーエンドパーティー
1.10　理事会
1.14～3.24　第28回ボランティア日本語講座
2. 8　第4回MIFAサロン「日本の着物着付け体験と投扇興」
2.29　ラオスを知ろう「MIFA招聘のラオス教育関係者による講演会及び交流会」
3.21　世界を知るシリーズ・大使講演会「スーダンの歴史・文化とアラブの詩人」

JICA草の根技術協力事業・地域提案型

ラオス教育関係者2人が来日

守谷市国際交流協会とラオスの交流は、5年前、「茨城県青年海外協力隊を育てる会」が、ラオスとの交流事業を行うことを決めたときから始まっています。

この交流はMIFAの有志が中心になって、育てる会の事業として推進してきました。1999年、第1回スタディツアー以降、交流が続いています。

平成14年度、国際協力事業団（JICA）「草の根技術協力事業・地域提案型研修」が地域のノウハウを生かすことを目的に事業化されました。MIFAはこれにエントリーし、人材育成の支援を目的に今年度、ラオスから青少年指導者と英語教育指導者の二人を招聘しました。

この事業は予算が確保できれば3年間行う予定で、16年度については内定されています。

茨城県青年海外協力隊を育てる会では1999年、ラオスに第1回の現地調査団（スタディツアー）を派遣して以来、毎年現地との交流を積み重ねてきています。この交流は、MIFAの有志が中心となって交流を推進してきました。2000年の第2回ツアーの時から、ルアンプラバン郡（県）のC.C.Cとの交流をはじめ、翌年11月にはC.C.Cから12人（うち生徒は10人）のミッションを1週間日本に招待しました。現地で選抜された10人の生徒は、たまたま全員がサンティパーブ高校の生徒でした。彼らは守谷市を訪問し、郷州小学校、守谷中学、守谷高校、乳牛農家などで交流を行いました。今年、C.C.Cから2人の高校生を、約9カ月間の予定で招待し、現在、県立結城第一高等学校に就学（留学）させていますが、現地で選抜されたこの2人も同じ高校の生徒です。

MIFAは、2002年、2003年の高校生を含むスタディツアーで現地を訪問し、C.C.Cともサンティパーブ高等学校とも交流を重ねてきています。

子供文化センター
C.C.C（Children's Cultural Center）

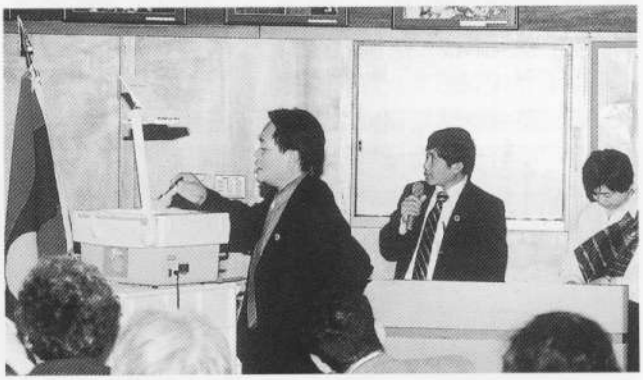
ラオス・ルアンプラバン郡にある地方政府の情報文化局（Information & Culture Dept.）傘下にある組織です。

このセンターには地域の学校（小・中・高等学校クラス）の生徒たちが放課後に任意で集まり、しっかりした指導者の下で各種の課外活動を行っています。その活動は、図書室で本を読む、手芸をする、機織をする、楽器演奏、民族の伝統的な歌と踊りや芝居などの練習、上級生による山間部など地方への出張活動などです。

2月8日、MIFAサロンで和服に着替え投扇興にチャレンジ（中央がブンコンさん、右がブアパンさん）

今回の研修の招聘対象者は、高校生を中心とした年代の子どもたちを、地域で長期間経験している「青少年活動指導」の専門家および「高等学校の経営・運営」に当っている人で、いずれ日本の学生・生徒との交流事業の具体化、活性化を念頭に、帰国後、実際に高校生の交換事業を進めていける人と考えました。来日したブンコンさんは、今年の春までC.C.Cの責任者であり、育てる会が2000年に現地を訪問した時以来、このプロジェクトの現地の推進者でした。この春、ルアンプラバン郡情報文化局の次長になり、C.C.Cを管轄する立場になっています。2001年、C.C.Cから日本に招聘した12人のミッションの団長として守谷市を訪れています。もう一人のブアパンさんは、英語の教師で、ラオス政府教育省のルアンプラバン郡教員養成カレッジ（高校卒業後3年間で教師を養成する）の英語指導部の責任者です。

研修の受け入れ先は、県立守谷高等学校です。日本の公立高校の経営・運営全般をその現場に立会いながら学習し、日本の標準的な公立の高等学校の運営の実



2月29日、交流会でラオスの教育事情を講演

情をそのまま見せて、参考になる部分を研修してもらえればと考えました。初めての招聘なので、英語の通じる先生に来ていただいて、高校側も英語の先生を中心に対応を考えていただいています。また、青年交流委員会や、地域のボーイスカウトなど、青少年の学校外の活動についても、研修の枠を広げます。

守谷市には2月15日に来市、翌16日には研修先の守谷高校を訪れ、打ち合わせを持ちました。

守谷高校の古谷校長からは「短期間ではあるが、研鑽して学習したことをラオスに持ち帰り役立てていただければ幸いに思います。ひいては、この交流が世界平和に繋がることを期待しています」との言葉をいただきました。ブンコンさんは「二度目の来日で、前回は、子どもたちを連れて各地を訪問し、日本の家庭からたくさんのことを学びました。協力関係が年ごとに深まっていると感じており、長く続くことを願っています」。プアパンさんは「初めての来日で、すべてが新鮮です。学校経営の勉強・授業などを通じて、日本の教育、教育制度を学び、帰国後ラオスの教育システムの向上に生かしたい」とあいさつされました。

その後、会田市長を表敬訪問、市長から「2001年に来日された際、ラオスの子どもたちの澄んだ目が印象に残っています。日本の、守谷の良いところを吸収し、役立てていただければ」との言葉をいただきました。

研修成果などは、次号のMIFAニューズレターで報告します。

2月26日、守谷高校で生徒と一緒に書道を習う

2月26日、守谷高校で生徒にラオスについて英語で説明するプアパンさん（右は通訳をする守谷高校生）

スケジュール

期日	内　容
2/ 3	来日
2/ 3～14	JICA研修
2/ 7	JICA東京ツアー
2/ 8	MIFAサロン（着物で投扇興）に参加
2/14	結城市訪問
2/15	守谷市到着
2/16	守谷高校訪問、守谷市長表敬、アサヒビール見学
2/17	図書館見学、市議会議場見学
2/18	守谷高校研修（3/19まで）
2/18	日本語講座受講（以降、随時）
2/21	MIFA主催歓迎会
2/22	ボーイスカウトBP祭参加
2/28	かるた大会見学、練心塾参加（以降、随時）
2/29	人形劇見学、MIFA主催守谷市民との交流会
3/ 3	ひょうたん工芸体験
3/ 4	給食センター見学、市内小・中学校見学
3/ 5	茨城県知事表敬、県警本部見学
3/ 7	陶芸体験
3/20	茨城県自然博物館見学、MIFA主催送迎会
3/21	MIFA主催スーダン共和国大使講演会参加
3/23～25	視察研修
3/29	JICAで報告会（レポート・プレゼンテーション）
3/30	離日

国際協力事業団（JICA）「草の根技術協力事業・地域提案型」

この事業は、地方公共団体及びその所管の地域が自ら持つノウハウ・経験を活かし、開発途上国の人々や地域の発展に役立つような協力活動を実施したいとする提案に対し、JICAが支援するという事業です。日本の地域社会が自ら持つノウハウ・経験を活かし、開発途上国からの人材の受け入れや現地における技術指導を通じ、地域が主体となる国際協力への取り組みを実現するとともに、広範な市民参加を促進することを目的にしています。

対象団体は地方自治体を対象としていますが、地方自治体が指定する法人やNGO、民間企業等との連携で事業を実施することも可能です。本事業（地域提案型）はJICAと地方自治体等の団体との間で業務委託契約を締結することにより実施することになります。

実施までのフローは次のようになっています。

事業アイデアの相談 → 案件提案表の作成・提出 → 案件提案表の審査（第一次審査＝JICA国内機関、第二次審査＝JICA本部及びJICA在外事務所、第三次審査＝外務省及び関係各省） → 結果通知（＝採択内定案件） → 相手国の了承取り付け → 業務委託契約の締結 → 事業の実施 → モニタリング・評価（報告会を開催、事業実績とその評価結果を公表）

（JICAホームページ・「市民参加」のページから）

MIFAフェスタ2003

9月28日、在住外国人とJICA研修員を招待して、MIFAフェスタ2003が行われ、秋の好日、文化交流を楽しみました。

参加者は、JICA研修員が31カ国64人、在住外国人は9人、日本人が78人（協力団体、スタッフを除く）で、総勢では延べ400人近くになったのではないかと思います。

懸案だった路上駐車も、今年は問題なく、協力いただいた方々に感謝します。

MIFAフェスタは文字で読んでも実感がわかず、それより写真で見ていただいた方が分かりやすいと思いますが、なにより実際に参加し、自分の目で見、肌で感じることが一番。次回は、ぜひ参加してください。

MIFAコンサート

10月19日、ログハウスを会場にMIFAコンサート「音楽で世界を巡る」が開催されました。

今回は10周年を記念し、青年交流委員会で活動している芸大生を中心として、本格的なイタリアオペラ・アリアからミュージカルや日本歌曲などを企画。音楽を身近なものにしていただきたいと、年齢制限を設けなかったためか、受け付け開始から数日のうちに定員の100人に達してしまい、数人、キャンセル待ちをしていただくほどでした。

当日、5人の芸大生の素晴らしい歌唱力や演奏で皆十二分に堪能し、小学生の父母からは「このような企画を、またぜひお願いしたい」と要望があったほどです。地域で本格的なものに触れることの大切さは、年齢を問わず大切にしていきたいことの一つだと感じました。

イヤーエンドパーティ

12月13日、恒例となったイヤーエンドパーティーが、ログハウスで行われました。参加者は日本人43人（うち子ども5人）、地域の外国人20人、JICA研修員31人、JICA職員3人の97人でした。

琴の演奏では日本文化に対する理解を深め、官能的なピアノの弾き語りに酔い、その後のサルサや歌の合唱では、外国人と日本人が一緒に踊り、歌い、楽しい一時を過ごしました。また、会員相互の親睦を深めることもできました。

最後は全員でヘイジュードを大合唱。一年を締めくくりました。

地域別国際交流ネットワーク会議で
小川会長が事例発表

11月6日、平成15年度茨城県地域別国際交流ネットワーク会議がつくば市で行われ、第2分科会で小川会長が「国際交流団体組織の充実・活性化と関係機関との連携」と題し発表を行いましたので、概要を報告します。

守谷市国際交流協会（以下MIFA）は、平成元年に守谷町（当時）がドイツ・マインブルグ市と姉妹都市を提携するのに併せて発足しました。

当初は、「守谷町姉妹都市委員会」として参加を呼びかけましたが、これでは姉妹（あなたとわたし）の関係にとどまります。そのため、講演会・コンサート・ホームステイ・パーティーなど何でも企画できる「守谷町国際交流協会」と名づけました。

組織は、人（人材）・物（活動拠点）・金（運営資金）です。活動拠点としては、アサヒビールがログハウスを寄贈。運営資金としては、進出企業や団地建設企業からの寄付で国際交流基金を設置。人材は、組織がしっかりしていれば自然に集まり、ボランティアで能力を発揮してもらえます。

協会の年間予算は450万円で、会費は個人会員が年額1,000円（会員数約450人）、市からの補助金（基金の利息や取り崩し）、各イベントの参加費などが収入となります。

行政（市）は、事務局として、「くらしの支援課」が担当し、対外的な窓口・市施設の会場予約などで、MIFAの運営を支援してくれています。

関係機関としては、JICAとの連携があります。7年前にJICAと協力し、「茨城県青年海外協力隊を育てる会」を設立しました。この関係で、ラオスとの交流を進めており、草の根国際技術協力でラオスの高校教諭の招聘を行う予定です。また、JICA研修員の守谷でのホームステイ、JICAとの共催によるMIFAフェスタなども行っています。

在住外国人との交流としては、MIFAフェスタ・イヤーエンドパーティーへの招待・日本語講座など、また、中国語講座の講師をお願いしたり、MIFAサロンでは母国の料理や風俗の紹介などをしてもらっています。

広報活動としては、ホームページの開設、MIFAニューズレターの年2～4回の発行があります。

MIFAとは別組織ですが、派生的に、「スリランカの子供達の就学を援助する会」が組織され、MIFAの会員の一部や青年交流委員会もメンバーとなり、支援活動・スタディツアーなども行っています。

土浦市国際交流協会が来市

11月8日、午前10時30分から昼食をはさんで午後1時30分まで、守谷市国際交流研修センターを会場に、土浦市国際交流協会と守谷市国際交流協会の交流会が行われました。出席者は土浦市19人（うち会員外3人）、守谷市22人で、それぞれ事例発表を行い、その後、相手側からの質問に答える形式で熱心な討議が行われました。

土浦市の事例と質議について報告します。

最初に、土浦市国際交流協会の竹内さんから、「地球市民ふれあいセミナー」について、発表がありました。

「土浦市国際交流協会設立の平成4年（1992年）から平成15年まで毎年1回、12回のセミナーを開催しています。4回目まではマスコミを通じてPRを行い、多くの参加者がありました。5回目からは、年1回、特定の国を決めて研修することにし、専門部会を立ち上げました。また、その国に研修にも行きました。第4回は韓国を訪問し、海外でのスタッフ研修とし、公共団体・行政との交流も行いました。セミナーを10年間行い、これからセミナーをどうするかを検討し、県、隣接の市町村、国は何をやっているのか勉強しようということになりました。"土浦発"として、昨年は美浦村を訪問し、今年は守谷市にしました。単発でなく、連載物でやるところが他と違うところか、と思います」

その後、事務局の木原さんから土浦市国際交流協会について補足説明がありました。

「会員は110人、うち個人会員は70人、残りは法人会員です。活動は、地球市民ふれあいセミナーのほか、土浦国際ふれあいデイキャンプ、土浦市中学生海外派遣事業（シドニー訪問）、キララまつりへ参加、多国語講座（12カ国語の実績があります）、ユネスコ協会との共催での日本語教室、土浦市に在住する外国人のためのガイドブック（英語、タイ語、ポルトガル語、スペイン語、中国語）の作成・利用など、広報誌の発行を行っています。また、土浦市は、ドイツのフリードリッヒスハーフェン市（人口57,000人）と友好都市関係を結び、相互訪問を行っています。このための事業も行っています。会員のほか、ボランティアの方が必要な時に活動を支援しています」

質議

質…企画立案はどこが行うか。

答…年間計画は事務局が立案し、理事会（9人で構成）に諮る。事業担当理事会は年数回行い、テーマを決める。専門委員会が具体的展開を行い、これをもとに、毎年スタッフとしての参加希望者を募集し、実行委員会が実施する。行政指導型の傾向がある。

質…役員会の出席率はどうか。

答…半分に達していない。

質…専従職員はいるか。

答…市役所職員2人が専従で、ほかに臨時職員1人を雇用している。臨職は週3回、一日7時間勤務である。

質…法人会員は。

答…法人会員は30社である。

質…市の補助は。

答…市の補助が一般会計からある。

質…中学生海外派遣はどのように募集するか。

答…学校経由で募集する。最近の例では、14人（希望者68人から選択）、引率は役員1人、市役所から1人である。費用は24万円のうち、半額を補助している。

質…会費について。

答…会費は個人で年3,000円であり、振り込みとしているため、確実に徴収している。

その他自由討議・意見発表

土浦市国際交流協会の活動やUNESCO協会の活動を通じ、市民が、国際感覚を身につけることを期待するが現実には大変である。当初、イベントを行ったが、魅力あるイベントがないのが悩みとなっている。そのため、地球市民セミナーに変わった。土浦の場合、国際交流は、別人がやっているという雰囲気が一般にはある。

また、県とのかかわりについて、守谷の場合はどうかという質問に対し、会長から「県のやっていることには振り回されないが、要請があれば応える。県の行事について、水戸は遠いが、県と市町村の代表者会議（各地区で開催）、県の国際交流まつりなどには参加している。先日行われた県民まつりでは、ラオスから来ている高校生2人の渡航費を捻出するため、ラオスの民芸品や結城産のお米を売って30万円の売り上げがあった」との発言がありました。

これからも県南にある市同士であり、交流を続けていきたいと考えています。

ホームステイ JICA研修員・筑波大留学生 ホームステイ

9月13日から14日、JICA研修員を招待してホームステイが行われました。

まず初日は、アサヒビール工場を見学、続いてログハウスで、浴衣の着付け体験です。研修員は浴衣にとても興味を持っていたので、喜んでいただけたと思います。浴衣に着替えてから守谷音頭を一緒に踊りました。手の動かし方など難しくて、ギクシャクしながらでしたが、皆で楽しく踊ることができました。

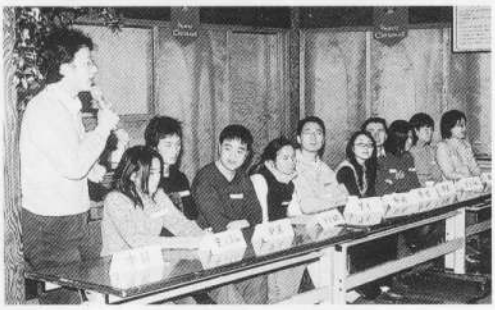
二日目は各受け入れ家庭の方たちが、自由にもてなしました。餃子作り、ショッピング、東京へ行かれた方（歌舞伎座、皇居、銀座へドライブ）、子どもの学校案内、近くの公園でバーベキューなどです。

受け入れ家庭からは、「その国の文化や言葉、習慣、食べ物など学ぶことができたのは良い経験」「二日間が短く感じられ、大変有意義に過ごせた」「ゲストがとても勉強家で優しい人だったので、楽しく過ごせた。これからもメールなどで連絡を続ける予定」といった感想が寄せられています。

12月6から7日、筑波大学留学生11人（中国4人、韓国3人、ブラジル、タイ、モンゴル、アメリカ各1人、ホストファミリー9家庭）を招待し、ホームステイが行われました。昼食会、その後留学生とのおしゃべりタイムを行いました。

留学生に「日本に来ての印象」を聞いたところ、「自然に手を加えてしまっている」「建物がきれい」「人が親切で優しい、安全である」「なんでも本気でする人たち」「新幹線が便利、工業が発達」「教育を重視している」。また、驚いたことは、「サラリーマンが急いでいる」「共同浴場」など、活発な意見交換が行われました。

今後の課題としては、筑波大学に提出する受け入れ家庭申込書に希望欄があり、女性希望者が多かったことから、該当する方がいないケースがありました。受け入れ家庭がなかったためキャンセルになるということは残念でした。



MIFAサロン ネパールの文化に触れる&ドイツのクリスマス

10月5日、水海道市在住のネパール人、スレスさんから、日本の麺を使ったネパール風焼きそばの作り方を教えていただき、試食しました。作り方は野菜を刻んで、バターと岩塩だけで味付けしたシンプルなものです。ネパールにはおしょうゆなどはないので、塩味のものが多いそうです。調理中は野菜を切る人、炒める人、男性も参加しながら、楽しい笑いの中、焼きそばが仕上がってきました。

その後、ネパールについて、宗教、言葉、習慣、および民族衣装などについて流暢な日本語で説明していただき、ネパールに触れる楽しい会となりました。

一緒に何かを製作するときには、言葉の壁はなく、ともに楽しむことができると思います。食文化を通して、各国の文化を知るサロンが続いていますが、これからも新しいテーマで、異文化交流を中身の濃いものにして行きたいと考えています。

11月16日、郷州公民館に22人（ドイツ2人、ネパール1人、中国1人）が参加し、国際交流員のサラさんを講師に、「ドイツのクリスマス」が行われました。

ドイツでは、クリスマスは家族や友人と過ごす大切な時間であるため、前から準備をして、クリスマスを楽しみに待っているといった話があり、その後、11月に行われる“聖マルティン祭”の時に作られるパン人形の作り方を教えていただきました。材料にクワークという特殊なチーズが入る甘いパンです。発酵がいらないので簡単にでき、人の形に作るので、参加したお子さんたちがとても喜んでいました。また、この時期にドイツで飲まれるホットワインの作り方も教えていただきました。寒い冬にか欠かせないドイツのワインの飲み方です。

試食して、後片付けまでとなるとやや時間が不足気味の感があり、もう少し時間がほしいと感じました。

ちょっと長めの編集後記

2003年度、MIFAは新しい一歩を踏み出しました。JICAの委託を受け「草の根技術協力・地域提案型」事業が始まったのです。これまでMIFAは、MIFAの予算〔会費、事業収入のほか市からの補助金（全額守谷市国際交流基金からの繰り入れ）〕を使い、MIFAの責任で、MIFA主催の事業を行ってきたのですが、この事業はJICAの予算（つまりは税金）を使っての事業となります。

たとえば、16年度採択内定案件を見ると、実施機関としては、北海道立工業試験場、札幌市、宮城県立がんセンター、栃木県、埼玉県、東京都下水道局、財団法人環日本海環境協力センター、長野県看護大学、名古屋市消防局、財団法人兵庫県国際交流協会、熊本県国際協会……、そうそうたる名称が並んでいます。そこに守谷市国際交流協会が、「同列」に載っているわけですから「エヘン」でしょうか？もっとも県内では14年度から里美村が実施しています。

話は変わりますが、MIFAのホームページ、掲示板をご覧になったことはありますか？

書き込みが少なく開設者としては少しやきもきしているところですが、開設当初からこまめに書き込んでくれる「純茨城系日本人1号」さんという方がいます。MIFAへの提案（意見）も少なからずあるのですが、それに対する投稿はありません。開設者としては、活発な意見交換をしてもらえればと、いつも感じているのですが、最近面白い書き込みがあったので、紙面を借りて紹介します。

ナンバー274「最近の書き込み、転載ものがやけに多いことにお気づきでしょうか？ネタがないと言われれば、それまで。でも、拾ったものを紹介する目的のほかにも、意図するものがあって、クドクドと説明的になってしまいますが、そろそろ自分の意見を書くころかなと…。転載しているのは、主に在住外国人の実態と、その人たちに対する行政や交流団体の取り組みに関するものです（内容に偏りがあるのは情報源が限られているからで、お許しを）。日本が、労働力の確保という「国の浮沈に関わる問題」で、「移民を受け入れざるを得ない」ことは、財界も含めたいろんな分野の人が唱えているのでご存知でしょうし、私もことあるごとに、移民社会の到来について書いています。しかし、このホームページの行事日程、過去の活動報告や会員向け行事案内通知を見ていると、強いて言えば『外国人のためのボランティア日本語講座』が一応それかな？と思えるだけで、ほかはどうも前世紀の遺物的な活動ばかりで、とても残念に思っています。それが悪いというのではなく、多文化・多民族の移民社会に向けた取り組みを真剣に考えて、むしろそれを中心に据えた活動をして行かないと、人と組織と（公的）資金がもったいないと思うのと、一見最先端のことをしてそうな国際交流協会が、実は世の中の動きから一番取り残されているような気がして…。そんなわけで、実態やよそ様の取り組みを知ってもらい、これまでとは違う視点から、今後の活動の方向を考えていただけたらと、せっせと記事を転載しているのでした。私も、守谷で出来ること、守谷でなければ出来ないことを考えたいと思います。皆さんも考えて下さい。紹介した遠い他県の会合など、誰も行けるわけないですよね」

ナンバー275「下館、下妻、石下、水海道。県内屈指の外国人（移民）集住地区。同時に、関東鉄道常総線の沿線です。来年は『つくばエクスプレス』が開通し、同じく外国人が大勢住んでいるつくば市と千葉県柏市、野田市が鉄道で結ばれます。なんと、この外国人集住地域を結ぶ2本の鉄道がクロスするのが守谷ではありませんか！取手市には気の毒な気もしますが、守谷市は東京からの玄関口として発展が期待されているし、多分そうなるでしょう。さらに、国際交流的な見方をすれば、前述したように、外国人集住地区のクロスロードになるのです。守谷市自体は、集住地区とは言いがたいかも知れませんが、それでも就労目的の外国人だけでも3桁はいます。今後は、もっと増えるでしょう。それよりも、守谷市（or MIFA）が、これら沿線の町の国際交流団体に働きかけてネットワークを構築し、守谷がその中心的役割を担うというのはいかがでしょう？在住者の絶対数以上に、交通の要として、外国人集住地域のポータルタウンとして、常総国際交流ネットワークの中心にふさわしいと思うのですが。これって、もしかしたら、守谷だからこそ出来ることかも？！まだまだ抽象論ですが、広域ネットワーク化は絶対必要だと思います。みんなで意見を出し合いませんか？」

これだけ読んでも少し分かりにくいかもしれませんが、大意は伝わると思います。もちろん、MIFA会員として言いたいこともある（と期待しています）。そうならぜひ、掲示板に投稿してください。この人の意見をもっと知りたい人も覗いてみてください。

そうでなくても、ちょっと掲示板を覗いてみませんか。

2003年度専門委員会委員長

総務委員会	久保　昌也	☎45−4390
都市交流委員会	尾崎　和恵	☎48−8393
語学研修委員会	竹下　明子	☎46−2150
広報委員会	小野　　泉	☎48−3917
ログハウス委員会	吉田　篤子	☎45−2375
青年交流委員会	島田　紅生	☎45−7349
日本語講座委員会	根本ひとみ	☎45−1569

会費納入はお済みですか…

平成15年度の会費をまだお支払いされていない方は、国際交流協会事務局（守谷市役所くらしの支援課内）へ持参するか、常陽銀行守谷支店　普通口座6255915　守谷市国際交流協会　会長　小川　一成へ

※便利な口座振替もあります。詳しくは国際交流協会事務局（☎0297−45−1111）へ